



ワークショップを行ったIE4.0開発チーム

発表直前緊急レポート
シアトル発

IE4.0 Technical Reviewers Workshopより

独自の世界に一步踏み出した インターネット エクスプローラ4.0 β 2 徹底解剖

山田祥平 photo: Picatti Dandolini

独自の世界に一步踏み出した。IE4.0の新バージョンには、そんな印象を受けた。

6月24日と25日の2日間、マイクロソフト社のお膝元である米国シアトルでテクニカルレビューワーズワークショップが開催された。ここでは、開発の最終段階に入ったIE4.0がお披露目され、世界各国から集まった百数十人の報道陣の注目を集めた。

これまで、ネットスケープ社を追いかける形で機能拡張してきたIEが、ここに来て、これまで見たこともないような独自機能を追加し始めた。

マイクロソフト社によれば、本誌が書店に並ぶころには日本語版ベータが発表されているとのこと。米国発の最新情報をもとに、一足先に次世代の窓をのぞいてみよう。

IE4.0を知るための

4

【現在、過去、未来】

膨大な量のウェブサイトを快適に巡回するには何が必要か。新しく加えられたエクスプローラーの役割りとは。履歴、お気に入り、検索の3つが意味するものはなにか。

【True Web Casting】

購読、チャンネル、そしてその先は、「オートブル」から「True Push」へと進化するIE4.0で次世代のプッシュは実現するか。今、ネットショーの位置付けが明らかになる。

【ZONE】

以前から指摘されていたセキュリティー問題への回答が出された。マイクロソフト社の提唱する「ZONE」とはどんな概念なのか。問題解決の切り札となりえるのか。

【WebUI】

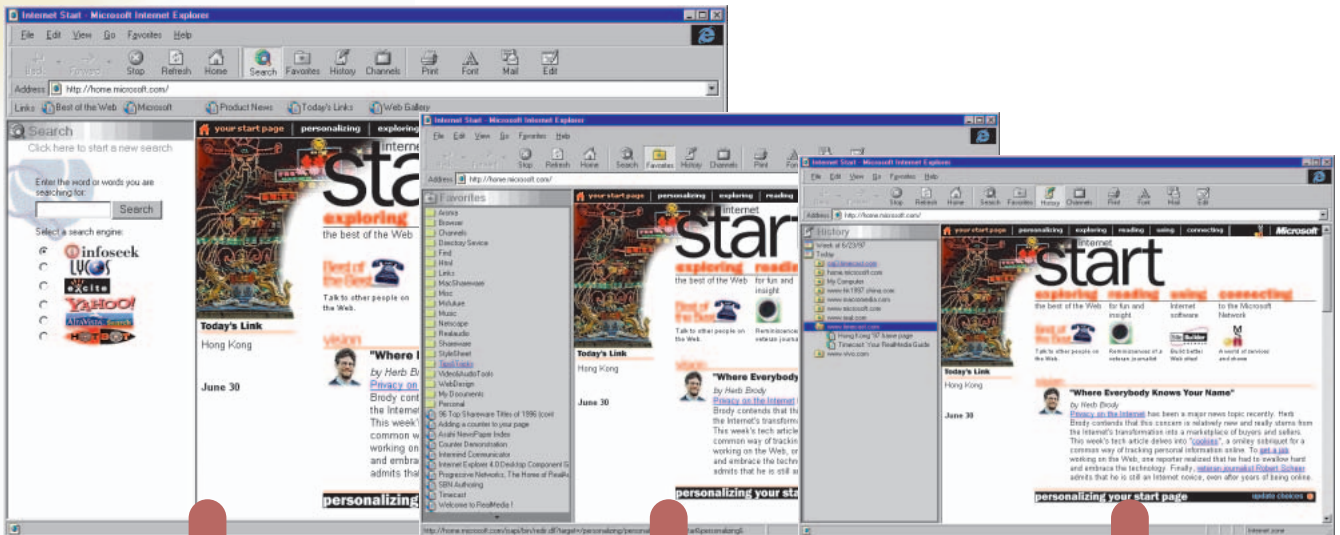
GUI(グラフィカルユーザーインターフェイス)に続く、WebUI(ウェブユーザーインターフェイス)とはどんなものか。IE4.0によってこれが実現されると、何が変わるのか。

3つのキーワード

情報へたどり着く 最短距離の提案

現在、過去、未来へのナビゲーション

各種の配信システムへの対応など新しい機能も重要だが、WWWブラウザとしての使い勝手は最も基本的な部分として強化してほしい部分だ。新しいIE4.0では、ツールバー上のボタンや、アドレス入力のコンプボボックス、そして、ウィンドウを2つのペインに区切り、現在、過去、未来という時間軸を設定したエクスプローラーバーの採用で、さまざまなサイトを行き来するための使い勝手が大幅に向上している。



未来 = 検索

サーチバーは、「Yahoo」や「infoseek」など5つの検索サイトを列挙し、テキストボックスに入力したキーワードを好きな検索サイトから探せる。検索結果は左ペインに一覧表示され、これをクリックすることで右側のペインに該当するページが呼び出される。自分の探している情報を簡単に見つけられるようになった。

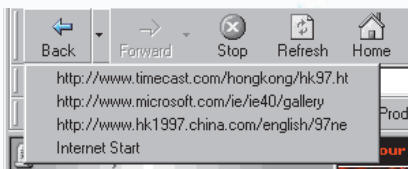
現在 = お気に入り

購読をするように設定しておいたサイトはチェックマークが付くので、エクスプローラーに一覧表示されるチェックマーク付きのサイトを順にクリックしていけば、巡回が短時間でできる。これはもう、アウトラインプロセッサの世界で、まるで自分のハードディスクにある文書を読んでいるかのようにウェブサイトを開覧できる。

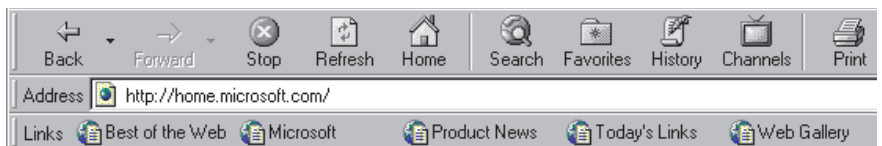
過去 = 履歴

過去に訪問したページは、サイトごとにまとめて一覧表示される。従来のように、単に訪れた時間順に並べられていただけでは、再度見つけるのに苦労する。これで、もう一度閲覧したいのに二度とたどりつけないといったサイトはなくなりそうだ。なお、エクスプローラーは、もう一度ボタンをクリックすることで非表示となる。

目当ての情報に素早くアクセス



ボタンにカーソルを重ねるだけで、どこに戻るかがポップアップ表示される。また、上図のようにボタン右側のスピンドルをクリックすることで、戻ったり進んだりできるページのリストが一覧表示される。



オートコンプリート機能により、URLをすべて入力する必要がなく矢印キーでサイト内のページもたどれる。IE2.0のころにはステータスバーの右端にあった表示中のページのURLへのアンカーが、アドレスバー上のミニアイコンとして

復活した。このアイコンをフォルダーやデスクトップに移動すると、そのページへのショートカットが作成される。また、右ボタンでデスクトップに持って行くと、アクティブデスクトップアイテムとしての登録もできる。

パーソナライズされた情報の配信

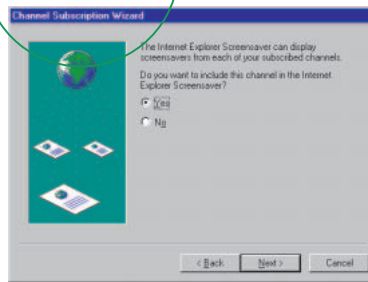
購読、チャンネル、ネットショーのもたらすもの

従来は、特定のウェブサイトを順に見て回り、なにか新しい情報がないかどうか、あるいは、前回訪れたときから情報が更新されていないかどうかを人間がチェックしていた。IE 4.0の「購読」によって、これらはすでに自動化された。2でついに姿を現す「チャンネル」は、購読をさらに進化させたもので、ウェブサイト側で、更新スケジュールやチャンネルとして提供するコンテンツを指定できるというものだ。

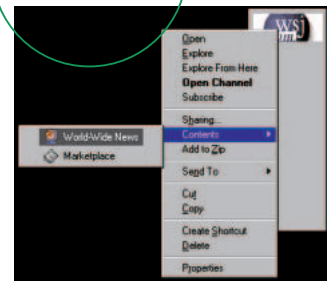
A



B



C



待望のチャンネルがやってくる

「購読」はお気に入りページの内容をユーザーが設定したスケジュールにより自動更新する。この更新タイミングをウェブサイト側から知らせてくれるのがチャンネルである。チャンネルに対応したウェブサイトには、(A)のようなボタン

があり、これを押すことで図(B)のチャンネルウィザードが起動する。チャンネルが登録されると、図(C)のようにデスクトップにチャンネルのイメージボタンが並び、これがチャンネルバーだ。任意のボタンをクリックすると、最新のコンテンツをフルスクリーン表示する。



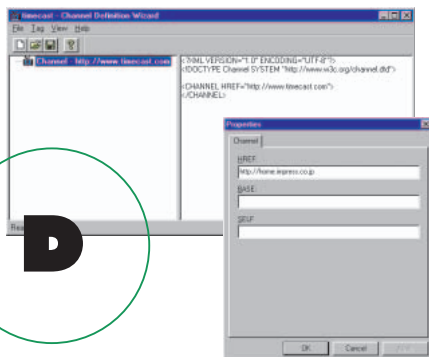
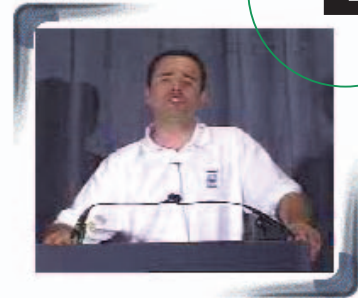
真のウェブキャストとは？

IE4.0は、3種類のウェブキャストに対応する。1つはIE4.0の「購読」にあたる「ベーシックウェブキャスト」。2つ目はCDFという形式のファイルを利用してサーバー側から更新タイミングやコンテンツの分類情報を送る「マネージドウェブキャスト」。これが「チャンネル」にあたる。IE4.0には「CDF Build」と呼ばれるCDF作成ツールが付属する予定だ(図

D)、そして、3つ目がマルチキャストによる真の「ブッシュ」を実現する「ツールウェブキャスト」だ。これに対応する代表的なツールが「ネットショー」である。ワークショップの会場では、プレゼンターの映像と、プロジェクターで投影されているプレゼンテーションスライドがリアルタイムに配信され、聴衆の目の前にある個々のPCに、これらが映し出されるというデモが行われた(図E)。

Microsoft
NetShow
Presenter

E



D

IE4.0が対応する3種類のウェブキャスト

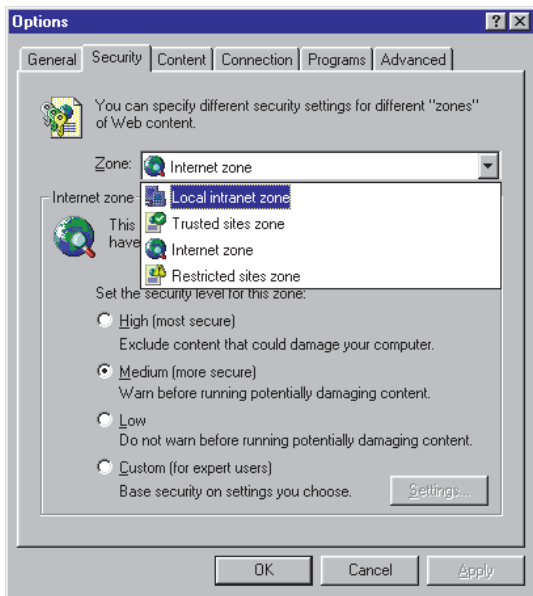
真のブッシュ	ツール・ウェブキャスト	「マルチキャスト」ネットショーによるリアルタイムのコンテンツ配信
自動化されたプル	マネージド・ウェブキャスト	「CDF(チャンネル)」サーバー側から更新情報とインデックス情報を取得
	ベーシック・ウェブキャスト	「購読」ユーザーが設定したスケジュールでコンテンツを取得

イントラネットにフォーカスしたセキュリティの強化

「ZONE」は救世主となりえるか？

セキュリティは、IEにとって鬼門だともいえる。ウィンドウズというプラットフォームに大きく左右される以上、セキュリティを甘くすればあまりにも危険で、きつくすると使いにくくなるという矛盾を抱えているからだ。プロキシを使えば、インターネットとイントラネットをある程度区分けすることはできたとはいえ、キメの細かな対応は無理である。この問題に対してIE4.0はどんな回答を出したのだろうか。

Internet Explorer 4.0β2



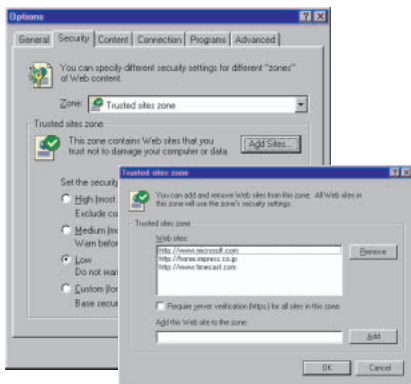
これが「ZONE」だ

IE4.0では、セキュリティ周りの設定をぐっと進化させ、「ZONE」という考え方を導入した。インターネット、信用できるサイト、信用できないサイト、イントラネットという4種類の標準ゾーンが用意され、それぞれに対して高中低のセキュリティを設定できる。セキュリティレベルはカスタマイズも可能で、アクティブXやプラグイン、JavaScriptなどに対してアクセスした場合に必ず受信できるようにするのが、まったく受け付けないようにするのか、あるいは受信前に「問い合わせ」を表示させるかといったセ

キュリティーレベルを事前に細かく決めておくことができる。

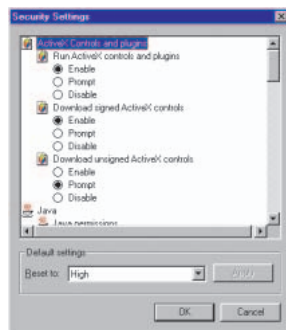
また、各ゾーンには自由にウェブサイトを追加できる。これにより各ゾーンに追加したウェブサイトを訪れたときには指定のセキュリティが自動的に働くようになる。そのほか、ローカルエリアに関しては、プロキシサーバーを使わずにアクセスするすべてのサイト、他のゾーンに含まれないすべてのローカルサイトといった指定の方法をとる。

このZONEという概念は、ネットスケープ社がイントラネット市場へ強くアピールしていることに対する回答とも取れる。つまり、ウィンドウズNTとIISを中心とするマイクロソフト社のイントラネット環境をZONEによって自由度を失わずに保護しようということではないだろうか。



サイトの追加

各ゾーンにセキュリティをかけたいウェブサイトを追加するためのダイアログ。下のテキストボックスに入力したサイトが追加されて、上のリストボックスに列挙される。マイクロソフト社のサイトなどはここに追加していいだろう。インターネットゾーンへの追加はできない仕様になっている。



セキュリティの詳細設定

各ゾーンに対して、どのようなセキュリティ条件を設定するかを細かく指定できる。高中低の3段階では、望みどおりの条件にならないような場合のカスタムセッティングだ。アクティブXひとつ取っても、署名の有無によるダウンロードの可否、さらに、実行の可否を細かく指定できる。



Trusted sites zone

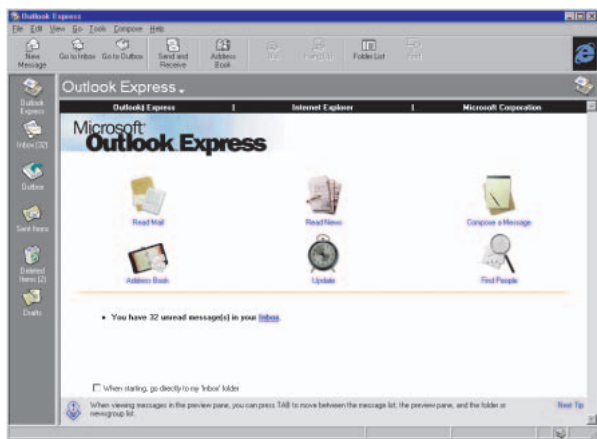
ZONEの表示

現在接続しているウェブサイトが、いずれかのセキュリティゾーンに属していると、ステータスバーの右端にゾーン名が表示される。上図は、「信頼できるZONE」にアクセスしたところ。現在は文字表示だけであるが、今後ちょっとしたアイコンでもあしらえばもっと分かりやすくなるだろう。



ブラウザ戦争の次は メッセージング戦争か？ 進化したアウトルックエクスプレス

HTMLメールがより使いやすくなったほか、プライバシーを保守しながら複数のユーザーで使えるようになった。ルックアンドフィールも本物のアウトルックに近づいた。というよりも、メールクライアントとしての機能は、本物のアウトルックを上回っている。これまで、ネットスケープメッセンジャーに大きく遅れをとっていただけに、このクライアントがメッセージング戦争の切り札になるかどうかが気になる。



これが新しい アウトルックエクスプレスだ

ウィンドウ左側のペインに見えるアウトルックバーには、各フォルダーへのショートカットが置かれ、直感的に目的のフォルダーを開けるようになっている。受信トレイアシスタントもアカウントごとに別のフォルダーにメッセージを振り分けられるなど、柔軟なメッセージの整理が可能

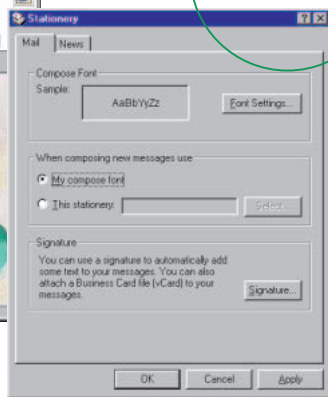
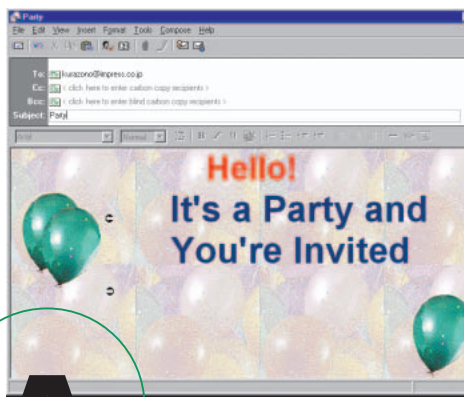
になった。IE3.0に付属していたインターネットメールとニュースでは、振り分け後のメッセ

ージがどこのフォルダーに移動されたか分からなくなるといった使いにくさがあったが、アウトルックエクスプレスでは未読のメッセージの数がフォルダーごとに表示できるようになったので、もうこの心配はない。

また、複数のユーザーが1台のコンピュータを共有する場合の配慮がされているのも嬉しい。家庭にインターネットが普及するには、こうした機能が必要不可欠だろう。



HTMLメール機能の強化



送信メッセージは、プレーンテキストかHTMLかのどちらかを選択できる。HTML形式でメールを出す場合は、背景画像などを使った「ステーションナリー」と呼ばれるテンプレートが使え、初めから数種類のものが用意されている(図A)。さらに、自分で作ったテンプレートを登録して

おくこともできる(図B)。ただ、すべてのユーザーが、これに適したクライアントを使っていると限らないため、返信時に、標準設定にかかわらず、相手のメッセージの形式に合わせて返事を出す「スマートリプライ」機能を備えた。これなら安心してHTMLメールを使えそうだ。

スレッド表示に対応

メッセージ一覧の並べ替えは、見出しの項目名をクリックするだけで。また、グループメッセージ順の並べ替えが可能になり、リプライなどのスレッドごとにメッセージを整理できるようになった。これで、メールメッセージの管理がより簡単に迅速になるだろう。



アカウントの切り替え

スタートメニューに、「Logoff xxxx」というアイテムが追加された。ここからログオフし、別のアカウントでログインすることで、ユーザーごとにメールボックスや設定内容が切り替わる。1台のパソコンを複数のユーザーが共有している場合のプライバシーも守られる。



OS、ウェブ、アプリケーション を単一の操作で GUIからWebUIへ

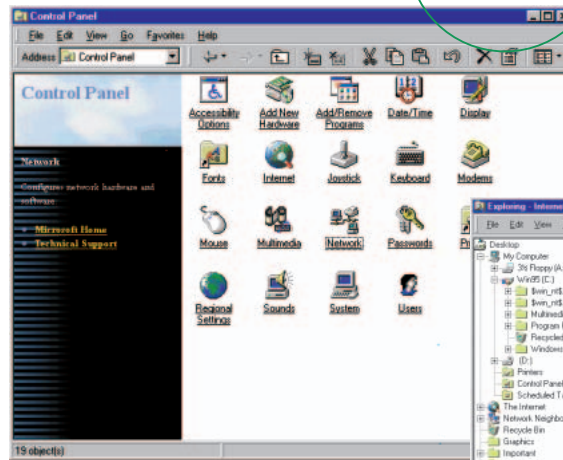
グラフィカルなユーザーインターフェイス「GUI」がさらに進化する。すべてがウェブの操作で行える「WebUI」。この正体を探る。

今回のワークショップで強調されたのが、「WebUI（ウェブユーザーインターフェイス）」というキーワードだ。「ウーイ」と発音するかどうかは別として「グーイ（GUI）」に代わる新世代のユーザーインターフェイスとして、短期間で定着することになるだろう。基本的な考え方は、すべてのリソースを単一のウェブのユーザーインターフェイスで扱えるようにすることだ。

過去において、ウィンドウズ3.1はアプリケーションごとの操作性を単一にした。次に、ウィンドウズ95はLAN上のリソースをも単一の操作で扱えるようにした。IE4.0は、さらにウェブサイトのリソースも含めたすべてのリソースを同様の操作で扱えるようにする。

シングルUI（単一の操作性）は、シングルクリックをも意味する。アイコンを開くのは、ハイパーリンクへのジャンプと同様にシングルクリックだけで可能だ。また、アイコンの選択は、クリックではなくカーソルを重ねるだけでもいい。これを「ホバーセレクト」と呼ぶ。

マイコンピュータを開いたときに表示されるフォルダーウィンドウもウェブ形式になっている（図A）。従来どおりの表示も可能だが、これ



は「ウィンドウズクラシックセッティング」として、もはや古風な見かけ扱いになってしまった。

ウィンドウズでは、目の前にあるファイルを開くために、これがどんなタイプのリソースであるのかを気にする必要はない。ファイルをクリックするだけで、必要なアプリケーションがこれを開いてくれる。しかし、ウェブがこれだけ定着したのは、リソースのタイプを気にしないでいいのに加え、それがどこにあるのかを知らなくても、ただクリックするだけで開くというシンプルな操作性が受け入れられたからだろう。これを受けて、マイクロソフト社は、1つのエクスプローラですべてのリソースを閲覧できるようにした（図B）。最終的にはアプリケーションのユーザーインター

A

さらに洗練された
マイコンピュータのウェブビュー

B

1つのエクスプローラで
ウェブサイトのリソースも表示できる



フェイスもWebUIに統一することになるだろう。そのための第一ステップがIE4.0である。

となると、気になるのが、ウィンドウズの次期バージョンである「Memphis」の初期セッティングだ。おそらくは、今年の年末から来年にかけての出荷になるだろうが、ウィンドウズクラシックセッティングでお目見えすることになるのだろうか。それとも、WebUIでできるのか。いずれにしても、OSの新しいバージョンと製品版のIE4.0が統合されたとき、ウィンドウズはどのような世界になるかが楽しみだ。

ブラッド・チェイスが語る IE4.0の世界

私たちはIE4.0を開発するうえで、1つのテーマを決めました。それは、「The Web the way they want it（ユーザーが望むようにウェブを使う）」です。これを実現するためには、よりパーソナライズされたWWWブラウザが必要です。「好きなウェブページは見た1時ですぐ見られるようにしてほしい」、「自分の作ったコンテンツをもっと早く

ウェブに載せたい」、「お気に入りのURLをカスタマイズしたい」、「数日前にクリックしたリンクをすばやく検索したい」といったさまざまな要望に応えられなければなりません。私も毎日ウェブサイトから情報を入手しています。これらの情報を私のデスクトップにそのまま載せることができたら、今よりもずっと楽になると思います。ま

た、自分の望むウェブサイトのチャンネルがあり、そのデータが自動的にダウンロードされたらどんなにすばらしいことでしょうか。私たちは、これをIE4.0とWebUIによって皆さんに提供したいと考えました。IE4.0の機能がみなさんにとって役立つものとなることを期待し、これが世界的規模でリリースされる日を楽しみにしています。



マイクロソフト社副社長 ブラッド・チェイス

Internet Explorer 4.0β2



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp